

2018年10月12日

受益者の皆さまへ

三井住友アセットマネジメント株式会社

## グローイング台湾株式ファンドの下落について

(10月12日の基準価額の変動要因についてのお知らせ)

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

2018年10月12日、以下のファンドの基準価額が前営業日比5%以上の下落となりましたので、要因等についてご報告致します。

### 1. 基準価額が前営業日比5%以上下落したファンドの名称とその状況

ファンド名	基準価額 (円) (2018年10月12日)	前営業日比 (円) (2018年10月11日比)	変動率
グローイング台湾株式ファンド	9,274	-616	-6.23%

### 2. 基準価額の変動要因等について

10月11日に台湾株式市場は下落し、その代表的指数であるMSCI台湾インデックスは、前営業日比6.5%の下落となりました。前日の10日にナスダックなど米国の株式市場が長期金利の上昇や米中貿易摩擦懸念から急落したことが世界の株式市場に波及し、台湾株式市場も下落しました。個別銘柄では、台湾株式市場の代表的銘柄で時価総額でも突出している半導体受託製造大手の台湾セミコンダクター（TSMC）をはじめ、米アップルのサプライチェーン（供給網）関連銘柄などが幅広く売られました。台湾株式市場はテクノロジー比率の高い業種構成となっており、米ナスダック市場急落の影響が他市場より大きくなりました。上記ファンドの基準価額については、以上のことが主な下落要因となりました。

### 3. 今後の見通し

台湾株式市場は、グローバルなサプライチェーンに組み込まれたテクノロジー企業の構成比が高く、米中の通商問題が長期化する中、当面は不安定な相場展開になると思われます。一方、台湾経済は3%強の水準で安定成長を続けており、直近の経済指標でも9月の輸出入額の伸び率が市場予想を上回るなど、引き続き堅調です。また、貿易黒字構造が定着しており、他の新興国のような通貨安加速のリスクは限定的です。台湾には、半

導体を筆頭とするテクノロジーや資本財等の分野において高い国際競争力やユニークなビジネスモデルを持つ企業が集積しています。こうしたことから、台湾株式市場は、当面の調整局面をこなした後は、緩やかな上昇局面に戻るとみています。

以上

#### 【当資料のご利用にあたっての注意事項】

- この資料は、三井住友アセットマネジメント株式会社が作成したものです。一般社団法人投資信託協会規則に基づき制定した当社社内ルールに従い、受益者の方に「ファンドの基準価額に重大な影響を与えた内容の開示」を行う受益者様用資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 投資信託は、値動きのある証券(外国証券には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 投資信託は、クローズド期間、国内外の休祭日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。
- 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に市場環境にかかるデータ・分析、運用・分配金実績、運用方針等が示される場合、それらは当資料作成時点のものであり、将来の市場環境・運用成果等を保証するものではありません。分配金は金額が変わる、または分配金が支払われない場合もあり、将来に関し述べられた運用方針も変更されることがあります。